



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目 次

「研修講座から」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
 「見方・考え方を生かす単元をつくろう⑨（生活科）」・・ p.2
 「「春休みの課題帳」をご活用ください」・・・・・・・・ p.3

研修講座から

高校数学 応用～評価問題作成と学習評価～

11月12日実施

<講座のねらい>

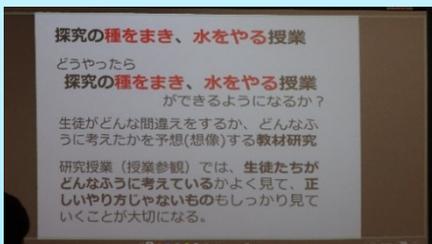
- ・高等学校における授業改善の方向性についての理解を深め、日々の実践に生かす
- ・評価問題作成を通して、これからの高校数学教育で育む力と求められる指導について学ぶ

<講座の内容>

- (研究協議) 思考力・判断力・表現力等を向上させるための課題と工夫
- (講義・演習) これからの高校数学教育と評価問題
- (実践発表) 思考力・判断力・表現力を問う作問
- (演習) 評価問題の作問
- (研究協議) リフレクション 学校で生かしたいこと



講座の様子



◆◆◆受講者のふりかえりから◆◆◆

- ・同じ教科の人たちで、集まって作問するということが楽しかった。他の方の視点を聞き、自分の考えを加えて作問する過程が探究的だと思った。
- ・グループ内で様々な意見を交わすことができ大変充実した時間でした。生徒の反応を予想しながら観点も視野に入れ作問することは楽しくもあり、勉強になった。



見方・考え方を生かす単元をつくらう⑨ ～生活科～

あれ！「見方・考え方を働かす」では？「見方・考え方を生かす」なんですね。私の学校では、2年生の生活科で大豆を育ててお豆腐をすることになっているのですが、どうすれば見方・考え方を生かせるのですか？



生活科の見方・考え方は、幼児期の子どもたちが培ってきている未分化な見方・考え方を、子どもたちが生かすということで、「生かす」なのです。

【見方】
身近な人々、社会、自然などの対象を自分との関わりの視点で捉える

【考え方】
自分の生活において思いや願いを実現しようとする学習過程で自分自身や自分の生活について考えていく

見方・考え方を生かす生活科の単元となるには、活動や体験は、教師の指示からではなく、児童の思いや願いから始まらなくてはなりません。

え…「2年生だから、お豆腐を作るために大豆を育てましょう」はだめなのですか…



教材が決まっていることに問題はありません。学習を効果的に生み出すために、教師の願いを中心とした単元も大切です。ただし、子どもが興味・関心を抱き、思いや願いが生まれるための工夫が必要です。



□ 子どもの思いや願いが生まれにくい展開

○学習活動 ◆支援や環境構成

○大豆との出会い

- ◆「2年生の生活科では、大豆を育てておとうふを作ります」
「やった！」「たのしみ！」「いつ作るの」「どうやって作るの」

○大豆を育てよう

- ◆「ここの畑で大豆を育てます。こうやってまきます。いっぱいできるように頑張ろう！」
「どうやってまくの」「これでいいのかな」「大変だな」「先生、これでいい？」
「頑張って早く終わらせようよ」「先生！ちゃんと埋めてない人がいる」
「ちゃんとやってよ」「頑張ったなあ」「つかれたなあ」「畑に来ると大変だ…」



子どもの思いや願いというより、反応という感じですね。この先、子どもも、先生も大変そう…

□ 子どもの思いや願いが生まれる展開

○学習活動 ◆支援や環境構成

○大豆との出会い

- ◆「去年、2年生が育てた大豆をもらったよ」 ◆「豆腐の作り方」の本をそれとなく教室に置いておく
「去年の2年生は大豆を育てて、お豆腐を作ったって〇くんが言っていたよ」
「私たちもおとうふを作りたい！」 「3年生におとうふの作り方を聞こう」
「この作り方の本を見たら作れるよ！」 「難しい言葉もあるけれど大丈夫かな」
「インターネットで調べてくる」「おうちの人に聞いてくる」「作り方を調べて、レシピを作ろう」
⇒豆腐作りの活動へ

○大豆を育てよう

- 「この前作ったお豆腐より、もっとおいしいおとうふを作って、家族にも食べてほしいな」
「そのためには、いっぱい大豆がとれるようにお世話しないと」
- ◆「たくさん大豆ができるように育てたいんだね。どうやって育てたらいいのかな」
「うちで畑のお手伝いした時には、1か所に2～3粒まいたよ」
「肥料をあげない方が豆はいっぱいできるって、おばあちゃんが言っていたよ」
「大豆の育て方を調べよう」「調べたまき方をみんなに教えて、まいたらいいね」
「たくさん採れるように、上手にまこう」「あれ、ちゃんと埋まってない。直そう」
「疲れたけれど、これでたくさん大豆できるかな」
「芽をカラスが食べちゃうっておじいちゃんと言っていたよ」「毎日見張ろう！」「案山子を作ろう！」

この先も、子どもたちが、自分のこととして大豆の世話をしたり、自分や家族のために豆腐を作ったりする姿が目に見えます。これなら活動を振り返ったとき、子どもたちは自然に自分自身の成長にも気付いていきそうです。

「活動があるから」と教師が進めてしまうのではなく、子どもの内に思いや願いが生まれる場をつくらったり、活動の中で生まれた子どもの思いや願いを把握して単元の中に位置付けたりしながら、「子どもと共に単元をつくらっていく」ことが大切です。



単元づくりについては、学習指導要領解説生活編 p88「単元の構想と単元計画の作成」に詳しく書かれています。そちらも参考にしてみてください！



